

1. 研究主題

自ら探究する意欲と、問題解決能力を育てる指導法の研究 ～求められる資質・能力を明らかにした授業の構築～

2. 主題設定の理由

品川区教育会理科部では、研究主題を「問題解決の能力を育てる指導法」ということをメインに研究してきた。科学的に解釈する力や子どもの言葉・文字によって表現する力の育成、授業での学習内容と日常生活に見られる自然事象との関連を図った指導や小中学校の科学的な見方や考え方の系統性を明らかにした指導を追求してきた。また、小学校と中学校で一つの部であることから、学年ではない分科会を設定し、小中の教員が一体となった研究を進めてきている。

今年度もその方向性に変わりはなく、副主題に～求められる資質・能力を明らかにした授業の構築～を立てて、新学習指導要領の理念も踏まえた授業構成の在り方を検証しながら実施していきたいと考える。

3. 研究の内容

(1) 問題を解決するために必要な資質・能力

問題解決の過程におけるどの場面に重点をおくのか明らかにして研究を進める。

(2) 指導計画・学習過程の在り方

小中学校の指導内容を以下の区分に分けて考え、その系統性を明らかにし、問題解決の能力を育てることのできる指導計画、学習過程を工夫する。

(3) 教材・教具の工夫

児童・生徒自らが探究心を持って問題解決に取り組み、実感を伴った理解、科学的に探究する能力を育てることができるよう教材・教具を工夫する。

(4) 発達段階を踏まえた指導法の在り方

3・4年では、1・2年での豊かな自然体験をもとに、身近な自然に対する興味・関心や基礎的な知識、技能を養い、学習の楽しさが実感できるようにする。

5～7年では、3・4年で学習してきた理科に関する基礎・基本的な観察・実験の技能・表現力を更に付けさせる。

8・9年では、課題意識をもって自然の事象や現象を観察し、問題解決の力を養うとともに、科学的な思考力・判断力、知的探求力等を身に付けさせる。

上記の内容を踏まえ、小学校と中学校の指導観や学習観を共通のものにし、そのうえで小・中学校あわせた7年間の学習内容や方法に系統性をもたせながら、自ら課題を発見し問題を解決していく学習を実践を通して展開していく。

(5) 指導と評価の在り方

児童・生徒の科学的な見方や考え方、問題解決の能力を評価する方法とそれを高める指導法を工夫する。

4. 活動計画（平成29年度）

6月	7日	実技研修会
7月	5日	授業研究①
9月	6日	授業研究②
10月	4日	授業研究③
11月	1日	品川教育の日
12月	6日	授業研究④
1月	17日	授業研究⑤
2月	14日	発表会